

決算の概要

当行は、全役職員が一致協力して地域に密着した営業活動を展開し、業績の向上と経営体質の改善強化に努めてまいりました。

その結果、譲渡性預金を含む預金等の残高は、期中246億円増加して、期末残高は9,753億円（前期末比2.59%増）となりました。一方、貸出金は地域の中小企業を中心とする事業資金の需要に積極的にお応えするなど、貸出金の増強に努めた結果、期中162億円増加して、期末残高は7,146億円（前期末比2.32%増）となりました。

また、有価証券は、期中45億円減少して、期末残高は2,997億円（前期末比1.48%減）となりました。

損益面では、経常利益は前期比6億5百万円増加して23億24百万円（前期比35.15%増）、当期純利益は同3億58百万円増加して12億58百万円（前期比39.67%増）となりました。

5年間の主要な経営指標等の推移

（単位：百万円）

決算年月	2016年3月期 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2017年3月期 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)	2018年3月期 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)	2019年3月期 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)	2020年3月期 (2019年4月1日から 2020年3月31日まで)
経常収益	18,838	18,278	18,123	17,311	17,470
経常利益	3,365	2,883	2,695	1,719	2,324
当期純利益	2,928	2,113	1,648	900	1,258
資本金	19,544	19,544	19,544	19,544	19,544
発行済株式総数（千株）	普通株式 102,448 第1種優先株式 75,000	普通株式 102,448 第1種優先株式 75,000	普通株式 10,244 第1種優先株式 7,500	普通株式 10,244 第1種優先株式 7,500	普通株式 10,244 第1種優先株式 7,500
純資産額	66,682	67,522	69,149	68,786	64,799
総資産額	1,045,667	1,082,187	1,103,805	1,085,214	1,112,553
預金残高	901,642	900,057	920,766	902,030	920,654
貸出金残高	682,320	688,750	695,143	698,420	714,678
有価証券残高	307,979	313,285	314,468	304,272	299,751
1株当たり純資産額（円）	507.65	5,155.50	5,337.65	5,302.38	4,908.65
1株当たり配当額 （うち1株当たり中間配当額）（円）	普通株式 2.50 (1.00) 第1種優先株式 2.768 (1.107)	普通株式 2.50 (1.00) 第1種優先株式 2.568 (1.027)	普通株式 16.00 (1.00) 第1種優先株式 15.718 (0.982)	普通株式 25.00 (10.00) 第1種優先株式 24.720 (9.888)	普通株式 25.00 (10.00) 第1種優先株式 24.720 (9.888)
1株当たり当期純利益（円）	26.81	189.15	144.49	70.72	106.07
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益（円）	14.41	91.13	75.46	35.95	43.31
自己資本比率（国内基準）（%）	10.21	9.78	9.65	9.60	9.25
自己資本利益率（%）	4.46	3.15	2.41	1.30	1.88
株価収益率（倍）	4.32	6.92	9.01	11.45	5.97
配当性向（%）	9.32	13.22	17.30	35.35	23.56
従業員数（人）	871	871	852	825	797

- (注) 1. 消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。
 2. 2020年3月期中間配当についての取締役会決議は2019年11月8日に行いました。
 3. 2017年10月1日付で普通株式及び第1種優先株式10株につき1株の割合で株式併合を実施いたしました。
 「1株当たり純資産額」「1株当たり当期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」は、2017年3月期の期首に当該株式併合が実施されたと仮定して算出してあります。
 4. 2017年10月1日付で普通株式及び第1種優先株式10株につき1株の割合で株式併合を実施いたしました。2018年3月期の普通株式の1株当たり配当額16.00円は、中間配当額1.00円と期末配当額15.00円の合計となり、中間配当額1.00円は株式併合後の配当額となります。
 また、2018年3月期の第1種優先株式の1株当たり配当額15.718円は、中間配当額0.982円と期末配当額14.736円の合計となり、中間配当額0.982円は株式併合前の配当額、期末配当額14.736円は株式併合後の配当額となります。

単体自己資本比率（国内基準）

（単位：百万円）

	2019年3月末	2020年3月末
自己資本比率	9.60%	9.25%
自己資本（コア資本）	61,489	62,421
コア資本に係る基礎項目	61,739	62,586
コア資本に係る調整項目（△）	249	164
リスク・アセット等	640,446	674,351

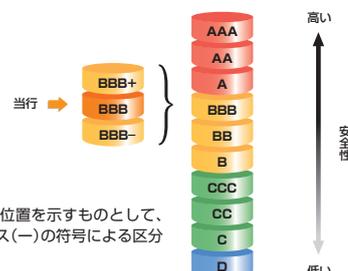
(注) 自己資本比率は銀行法第14条の2の規定に基づき平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出してあります。なお、当行は、国内基準を適用しております。

格付

2020年3月31日現在

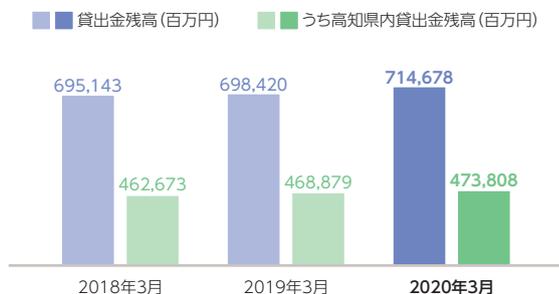
高知銀行は、株式会社日本格付研究所（JCR）から長期優先債務格付で「BBB」（トリプルB）の格付けを取得しております。

※ 格付けは、利害関係のない格付け機関が企業の財務内容を客観的に評価し、わかりやすく記号で表したものです。
 ※ AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして、プラス（+）もしくはマイナス（-）の符号による区分があります。



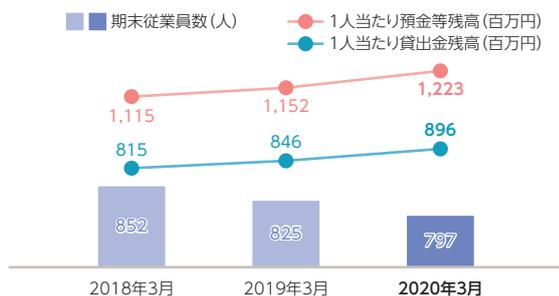
貸出金

地域の中小企業を中心とする事業資金の需要に積極的に対応するなど、貸出金の増強に努めた結果、貸出金残高は前期末比162億円増加して7,146億円となりました。



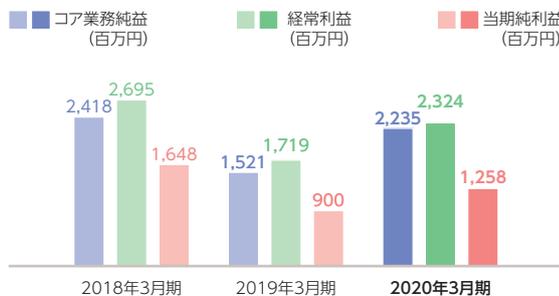
従業員1人当たり効率

営業部門への人的資源の投入と併せ、営業態勢を再構築するなど、営業効率の向上に取り組んでおります。期末従業員数(嘱託及び臨時従業員を含んでおりません)は、前期末比28人減少して797人となりました。この結果、従業員1人当たりの預金等残高は12億23百万円、貸出金残高は8億96百万円となりました。



コア業務純益・経常利益・当期純利益

地域に密着した営業活動を展開し、業績の向上と経営体質改善強化に努めた結果、コア業務純益は22億35百万円、経常利益は23億24百万円、当期純利益は12億58百万円となりました。

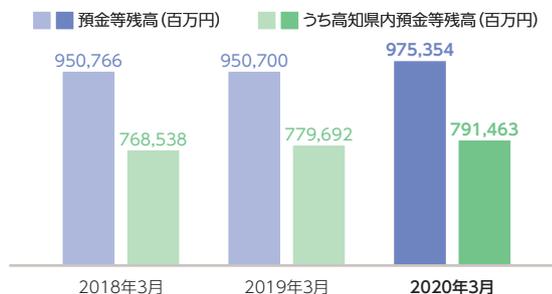


●コア業務純益

コア業務純益とは、資金の運用収支、手数料等の収支、外国為替や債券等の売買の損益等の利益から債券に係る損益と経費を差し引いて算出される利益で「銀行の本業での業績を表す指標」といわれております。

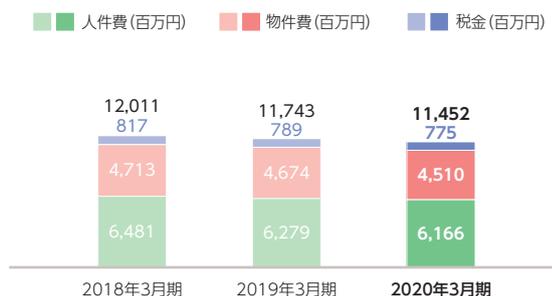
預金等(譲渡性預金含む)

地域に密着した営業活動を展開した結果、預金等残高は前期末比246億円増加して9,753億円となりました。



経費

物件費の削減等に取り組み、経費全体では前期比2億91百万円減少して114億52百万円となりました。



自己資本比率

経営の健全性の重要な指標とされる自己資本比率は、前期比0.35ポイント低下して9.25%となりました。

